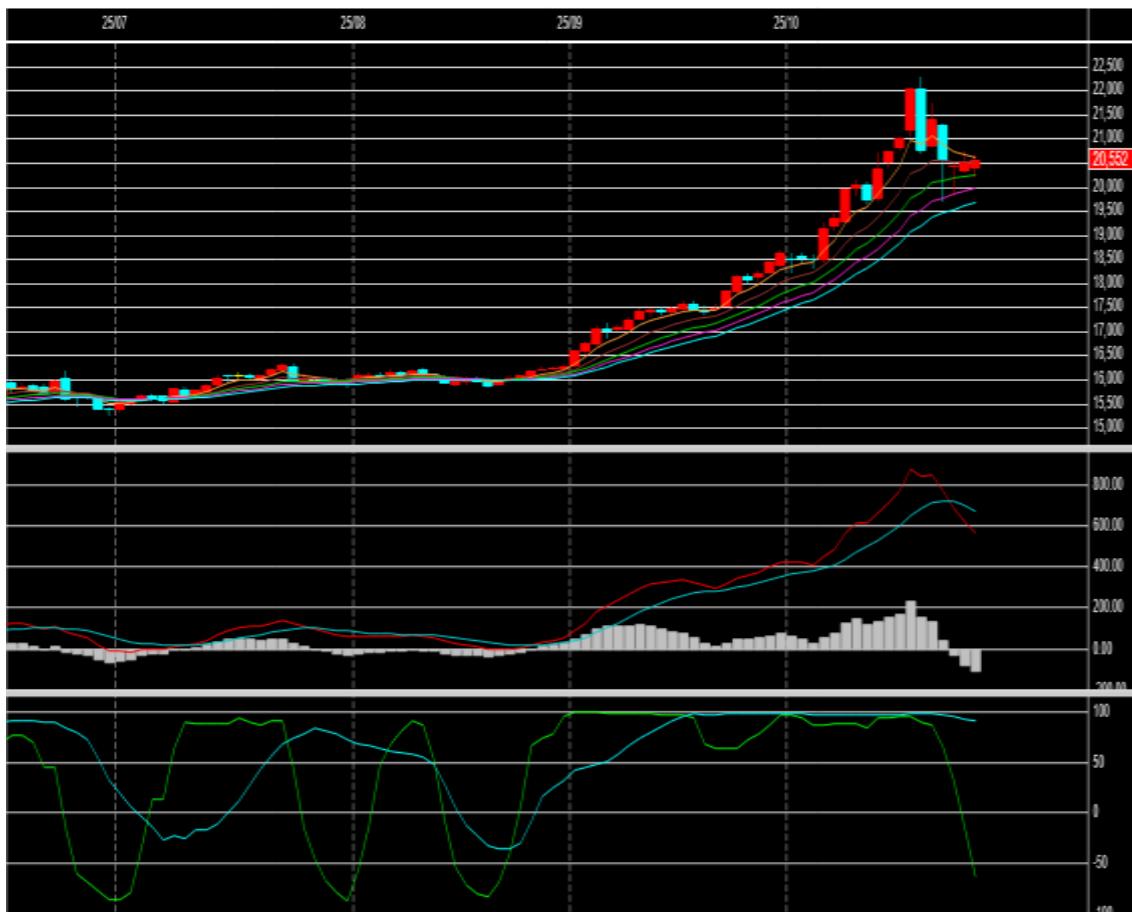


<金標準、パウエル FRB 議長の発言如何で再度 20000 円・・・>



(出所：オアシス)

金標準先物は、9月1日の16293円から33日間強気基調を続け、22288円まで5995円の上昇を行ったが、ビットコインの反落もあり、買われ過ぎた価格の修正が行われている。

特にトランプ大統領は中国に対して、レアアースの輸出規制強化を理由に11月1日から100%の関税を引き上げ130%になると発表し、10月31日のAPECでの米中首脳会談も不透明になるも、ホワイトハウスは10月31日に米中首脳会談は行われると発表し、貿易戦争は楽観的な打算が働くなどリスクは後退している。ただ週末発表された消費者物価指数(CPI)では、前年比0.3%、コア前年比でも3.0%となるなど、市場の思惑以上に悪化しなかった。そのため10月29日のFOMCで利下げのハードルが下がり、FRBにとっては歓迎すべき内容となっている。ただ利下げは確実視されているもパウエルFRB議長は、政府機関の閉鎖を理由に慎重なニュアンスのコメントになると見られ、FOMC以降の値動きでは再度20000円を試す値動きには注意が必要に思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDが下げながら、シグナルも下げている。RCIは短期は下落し、長期は切り下げている。特に日足が指標平滑移動平均線のレンジ内に移行し、迷い相場を示している事から20000円に向けた値動きには注意が必要に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に關し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取 1,930,000 円(2025 年 10 月 27 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 102,960 円(2025 年 10 月 27 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>